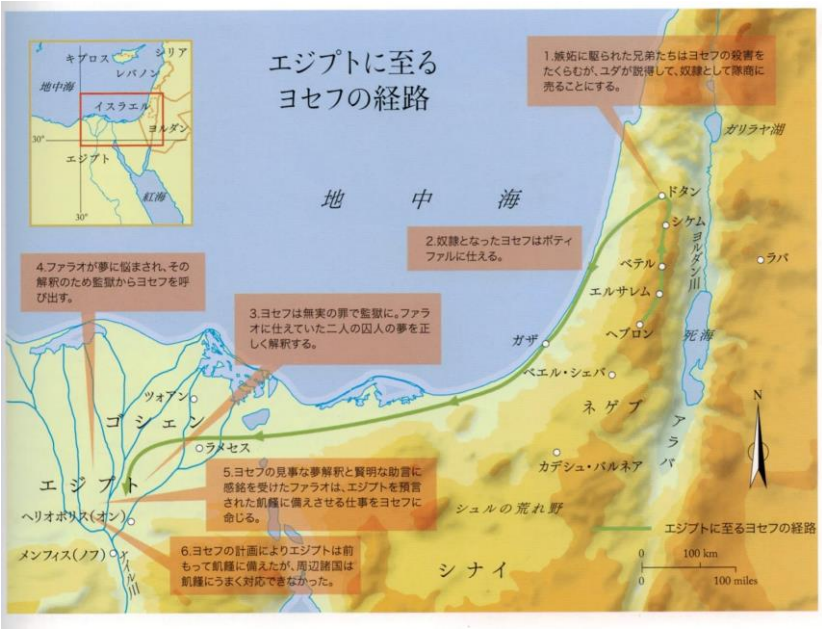

2020 年 10 月 25 日　説教「あなたがたの父の神が」

創世記 43 章 16～25 節

「失う時には失う」と委ねたヤコブ。息子達はエジプトに着きました。

1．ヨセフと兄弟達の再会（16～18 節）

①ベニヤミンを見て（16）**「ヨセフはベニヤミンが彼らといっしょにいるのを見るや、彼の家の管理者に言った。『この人たちを家へ連れて行き、獣をほふり、料理しなさい。この人たちが昼に、私といっしょに食事するから』」**ベニヤミンは父ヤコブとラケルとの間に生まれた子で、彼の誕生の時に母ラケルは命を落としたのです（35:8）。そして、12 人の兄弟達の中でラケルを母とするのは彼と宰相となっているヨセフだけでした。弟ベニヤミンの姿を確認したヨセフは、家の管理者にもてなしをすることを命じました。それもヨセフの家に招き、特別の肉料理を作らせ昼食を共にする段取りを立てたのです。

②ヨセフの家へ（17）**「その人はヨセフに言った通りにして、その人々をヨセフの家に連れて行った。」**その人（家の管理者）はヨセフに命ぜられるままに、兄弟達をヨセフの家に連れていきました。宰相ヨセフの家に入るということは、エジプトの人々でも滅多にはなかったでしょう。起きるはずもないことが起きているのです。

③兄弟たちの疑い（18）**「ところが、この人たちはヨセフの家に連れて行かれたので、恐れた。『われわれが連れ込まれたのは、この前のとき、われわれの袋を返されていたあの銀のためだ。われわれを陥れ、われわれを襲い、われわれを奴隷として、われわれのろばもいっしょに捕らえるためなのだ』と彼らは言った。」**宰相の家に招かれるとは名誉なことですが、兄弟たちはそれを素直には受け取ることができず、むしろ恐れました。前回のことで問い詰められるのではと勘繰ったのです。つまり前回、支払ったつもりの銀が、彼らの袋の中に戻されてあったのです。それは、なんらかの企みではないかと思ったのです。そのことで自分たちは罪を着せられ、奴隷にさせられ、大切なろばも、捕縛されるのではと思ったのです。

2．必死の弁解（19～22 節）

①兄弟たちの弁解(19~20)**「それで、彼らはヨセフの家の管理者に近づいて、家の入口のところで彼らに話しかけて、言った。『失礼ですが、あなたさま。この前のときには、私たちは食糧を買うために下って来ただけです。』**そこで家の入口のところまで来ると、兄弟達は先手をとってその家の管理者と周りの者たちに弁解しました。つまり、自分たちには何の下心もなく、ただ食糧を調達するために、この地にやってきたのです。それ以外の目的は一切ありませんでした。どうか、まずこのことを信じて下さいと訴えたのです。

②弁明の続き（21）**「ところが、宿泊所に着いて、袋をあけました。すると、私たちの銀がそのままそれぞれの袋の口にありました。それで、**

私たちはそれを返しに持ってきました。」さらに兄弟たちの説明は続きます。ところがです。帰り道の宿泊所について、一息ついた時に自分たちの袋を開けたところ、支払ったはずの銀が袋の中にあったのです。私たちはそれをせしめようなどとは思っていません。ですから、今回はそれを持ち帰ってきています。彼らは必死に弁明しました。

③銀は持参（22）**「また、食糧を買うためには、ほかに銀を私たちは持ってきました。袋の中にだれが私たちの銀を入れたのか、私たちにはわかりません。」**もちろん、今回の食糧調達分の代金としての銀はちゃんと持ってきております。いったい誰が袋の中に、その銀を入れたのかは、全くわからないのですと、兄弟たちは釈明しました。

３．ヨセフの家にくつろぐ兄弟達（23～25 節）

①あなたがたの神が（23）**「彼は答えた。『安心しなさい。恐れることはありません。あなたがたの神、あなたがたの父の神が、あなたがたのために袋の中に宝を入れてくださったのに違いありません。あなたがたの銀は私が受け取りました。』それから彼はシメオンを彼らのところに連れて来た。」**それに対して、その家の管理者は意外な発言をします。「安心しなさい。恐れることはありません」。この言葉を聞いた時も、兄弟たちは安心しなかったでしょう。さらに管理者は言うのです。「あなたがたの神が袋の中に宝を入れてくださったのに違いありません」。自分たちの見上げる神がそれをなしたと言われて、兄弟たちはきょとんとしたでしょう。また「前回の支払い代金の銀はいただいています」と言われれば、もう何が何だかわからなくなっていました。疑われてはいないと思い始めたことでしょう。それを確信させたのは兄弟シメオンが彼らの前に連れて来られたことにもよりました。

②くつろぎ（24）**「その人は人々をヨセフの家に連れて行き、水を与えた。彼らは足を洗い、ろばに飼料を与えた。」**その管理者は兄弟達をヨセフの家へと招き入れました。そして、のどが渇いていただろう彼らに水を飲ませます。彼らは足を洗ってくつろぎ、腹を空かせていたろばには、飼料を与えることもできました。その間、彼らの心の中には、いったいどうなっているのだろうかという思いがあったでしょう。まるで宰相の客のようにさせてもらっているのですから。

③贈り物の準備（25）**「彼らはヨセフが昼に帰って来るまで、贈り物を用意しておいた。それは自分たちがそこで食事をすることになっていることを聞いたからである。」**兄弟たちは、宰相ヨセフが午前中の仕事を終え、昼に帰ってきて、そこで食事をすることになっていることを聞きました。そこで、運んできた贈り物の準備をしたのです。父ヤコブから命ぜられたカナンの名産の物でした。乳香、蜜、樹脂、没薬、くるみ、アーモンド、それに二倍の銀です。父ヤコブの心です。なんとしてでも、宰相に好感をもってもらい、ベニヤミンやシメオンも帰って来られるようにとの願いがこめられていました。

《結論》

ヤコブの息子達は食糧調達のために、再度エジプトに向かいました。今度は、宰相ヨセフの要請に応じてベニヤミンを伴っての訪問でした。一方、ヨセフは来訪した兄弟達の中に、ベニヤミンの姿を発見して感動し、自宅に彼らを招き、食事を共にすることにしました。兄弟達は、誤解をとくために、自分たちの袋に戻されてあった銀について、自分たちの意図ではないと懸命に釈明しました。

それに対する家の管理人の応えは意外なものでした。つまり、エジプト側では穀物の代金としての銀はもらっているとし、**「安心しなさい。恐れることはありません。あなたがたの神、あなたの父の神が、あなたがたのために袋の中に宝を入れて下さったのに違いありません」**と言ったのです。驚きの言葉です。イスラエルの神の備えについて、彼らはエジプト人から教えられて、自分達の不信仰を恥じたことでしょう。

この出来事は、ヨセフが手を回して、僕たちに銀を袋に入れさせた可能性が高いです。それをこの管理者が知っていたかどうかはわかりません。また、上の言葉をヨセフがこの管理者に言わせたのか、この管理者が自分の言葉で言ったのかどうかもわかりません。いずれにせよ、その言葉の内容に注目したいのです。具体的な経過はともかくとして、**その銀をあなたがたの袋に入れてくださったのはあなたがたの父（ヤコブ）の神だ**と伝えられた点です。**「神は、みこころのままにあなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです」（ピリピ 2:13）**とありますが、様々な人の内に主は働きかけて何事かをなさせて下さるのです。ヨセフの心にも様々な思惑があり、働いた僕は言われるままにことをなしたのでしょう、家の管理人は口裏を合わせるというよりは、彼なりの言葉で語っているようにも見えます。

私たちの人生にも同じような事が起こされて行きます。その経過においては①違った目的で動いていた②時にはあまり好ましい動機ではなかった③時には罪まみれであった、かもしれません。しかし、それらの事実をも含めて、新しい展開が起こされていくということがあるのです。そもそも、私たち人間のなすことに、純粋に正しく、聖く、問題がないということなどない、と言っても過言ではありません。主のご意志が働かれる時に、それらすべてに働きかけられて、結果として主の定められた道へと向かってことは進められていくのです。だからといって、罪は罪のままで良いと言っているのではありません。その経過では、悔い改めがあり、行動を正されることもあるでしょう。とはいえ、主がこの管理者に言わせた言葉の内容には真理があります。主がヨセフや人々を働かせて、ヨセフの兄弟たちに恵みを与えてくださったのです。

私たち一人一人と家族や教会の将来についても、どのようになるかは誰もわかりません。しかし、不思議な方法で事を起こしてくださるのは

主です。この方にお頼りして、今週も歩んでいきましょう。